

協力隊の活動事例



林業で地域おこし

あつけしちょう

北海道厚岸町では、見過ごしてしまいがちな林業の魅力を情報発信し「木材への親しみ」や「木の文化の理解」を深めるための「木育活動」を進めていただくことを目的として、令和2年度から、林業振興に関する地域おこし協力隊を採用しています。採用された隊員は、厚岸町森林組合に拠点を置き、林業技術の習得やSNS等を活用した町の魅力等の情報発信に取り組んでいます。



北海道厚岸町 地域おこし協力隊 佐倉 咲之介さん(活動期間: 令和3年度～)

幼少より 自然が好きで、自然に関わる仕事に従事したいという思いがありました。また、生態系の基礎となる森林環境の維持・保全に大きな関心があり、応募を決めました。現在は、林業に関する応用知識と現場技術の習得を目指し、厚岸町森林組合で森林整備に従事するとともに、森林や林業の魅力を町民にわかりやすく魅力発信しています。作業技術はまだまだ独り立ちには程遠いので、これからも引き続き先輩方に指導してもらいながら日々成長していけたらと思います。



地元の細かなニーズに応える協力隊員が活躍

おおつちちょう

岩手県大槌町では、林業のNPO法人の体制強化を通じて地域の林業に携わる人口を増やすとともに、町内の細かなニーズに応えることができる人材を増やすことを目的に、地域おこし協力隊を採用しています。令和5年度は、2名の隊員を採用しており、NPO法人において、素材生産事業、木工製品試作、地域向け木工教室等の開催などの活動を行っています。



岩手県大槌町 地域おこし協力隊 大邊 慧之さん(活動期間: 令和4年度～)

東京で会社員生活を長く続けていましたが、田舎への移住や林業に携わる生活への憧れなどをきっかけに岩手への移住を検討し、大槌町の林業に係る地域おこし協力隊となりました。

現在は、協力隊員として、森林での現場作業や、小中学生を対象にした木工教室、薪まつりなどのイベント開催の活動に取り組んでいます。林業の専門的な知識を身につけ、独立してからも、それを生業にしていけることを目標にしています。



林業技術の習得と都市部との交流の促進

ねばねむら

長野県根羽村は、村長が森林組合長、村の全世帯が山持ちで森林組合員という全国でも珍しいシステム作りを推進し、村民と行政が一致団結して豊かな森林と暮らしを守っています。基幹産業である林業の振興、持続可能な地域づくりを進めるために、地域おこし協力隊を林業従事者として養成し、村への定住促進を図ることに取り組んでいます。



長野県根羽村 地域おこし協力隊 山本 英介さん(活動期間: 令和2年度～)

自伐型林業の講習や勉強会に参加し 林業の厳しい現状も理解した一方で、可能性のある面白い仕事のようにも思い、移住体験ツアーに参加した根羽村の協力隊員 となりました。

1,2年目は森林整備課職員として、森林組合の森林整備事業に従事し、林業機械の資格取得や林業の基礎知識を学びました。3年目以降は、現場作業を離れ、森林体験学習等の都市部との交流の促進に取り組んでいます。今後は、森林施業プランナー資格を取得し、プランナー業務と並行して都市部との交流活動を継続していく予定です。





森林整備と精油事業による林業の六次産業化

群馬県みどり市では、地域で新しい担い手として、地域外から意欲ある方を受け入れ、みどり市の地域力の強化及び地域の活性化を図るため、地域おこし協力隊制度を活用しています。令和5年度は、林業分野、木材産業分野、農業分野、観光分野、施設管理分野、移住定住支援分野の隊員が活動しており、このうち林業分野の隊員は4名、木材産業分野の隊員は1名です。



群馬県みどり市 地域おこし協力隊 伊藤 友樹さん(活動期間:令和4年度～)

以前住んでいたみどり市の森林資源の豊富さと魅力が忘れられず、地域おこし協力隊制度を利用して戻ってきました。

現在は 地元の自伐型林業実践者および林業事業体のもとで技術を学びながら、同じ林業分野の隊員と共に市有林の整備を行っています。また、伐倒木の枝葉やバイオマス材、地元で活用されていない柚子を利用して精油を抽出しています。将来的には、精油事業を中心に林業の六次産業化を目指しています。



モデルチームの編成による自伐型林業の普及

すくもし

高知県宿毛市は、山の仕事に多くの方が関心を持ち、新規参入につながるよう、関係機関と連携しながら取り組んでおり、とりわけ自伐型林業実践者の育成を進めています。自伐型林業の普及の一環として、平成30年度から地域おこし協力隊の募集を行っており、採用された隊員が自伐型林業の実践を目指し、日々活動しています。



高知県宿毛市 地域おこし協力隊 難波 久美江さん(活動期間:令和4年度～)

令和5年度には4名の隊員が、市内山林を中心に、作業道開設、伐木、集材等の林業に必要な知識・技術の習得に取り組むとともに、市民を対象とした「すくも森林塾」を運営し、新たに林業を始めたい方に対するの普及活動を行っています。

受け持ちの現場や、地元林家や協力隊OBの現場で技術を学んでいます。また、近くの市町村の協力隊と、情報交換をしたり、視察を行ったりしています。休日は、ゴルフやダイビング等、目一杯楽しみながら、定住に向けて活動をしています。



広葉樹天然林を活かした地域活性化

いけだちょう

北海道池田町には、120 km²の広大な広葉樹天然林がありますが、それらの多くは管理が不十分な状況にあります。担い手の不足、維持管理経費に見合わない価値の低さなどの課題解決のため、製炭技術の後世への伝承や山林所有者等による小規模な自伐型林業の実施など、林業振興及び地域活性化に力を発揮して頂ける地域おこし協力隊を募集しました。



北海道池田町 地域おこし協力隊 福家 菜緒さん(活動期間:令和2年度～)

林業が盛んな街で育ち、いつかは十勝で暮らしたいと思っていました。約10年、自然に携わる仕事をしていて、やはり林業の仕事がしたいと考え模索する中、小規模経営が可能な自伐型林業を推進する池田町での隊員募集を知り、林業推進員に応募しました。

林業推進員は、役場産業振興課林務係に席を置き、自伐型林業の推進等のほか、定住に向けた活動も行います。

任期中は伐木等の技術研修、関連する資格取得、活動山林の取得を目指した情報収集、また地域の小学校を対象とした森林環境教育の実践等を行いました。退任後は引き続き同町にて、森林環境教育や木育の活動及び森林空間活用を主とした事業を立ち上げます。

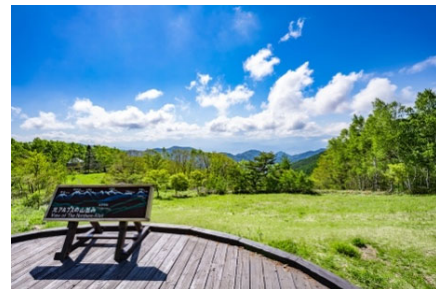




「森林サービス産業」の創出に向けた取組

すぎかし

長野県須坂市では、隊員自身がやりたいことに自由に挑戦出来るよう、フリーミッション制で地域おこし協力隊を募集しています。また、協力隊OBと現役隊員で構成する「地域おこし協議会」を設立し、着任した隊員が抱える課題を解消し、「相談できる仲間がいて」「素早く人脈を築き」「起業まで活動が繋がり」「定住できる」ように取り組んでいます。



長野県須坂市 地域おこし協力隊 野澤 健太さん(活動期間:令和4年度～)

かねてから「自然豊かな長野に移住したい」という思いがあり、地方移住を考えていたところ、市の隊員募集を見つけ、フリーミッション制や協力隊OBによる支援があること、長野市等からのアクセスが良いことなどを理由に応募しました。

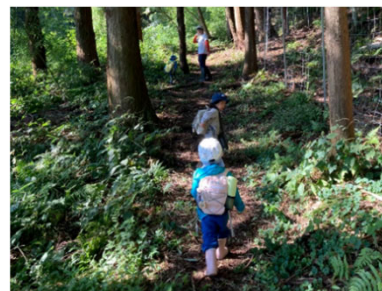
現在は、峰の原高原を拠点に「森林サービス産業」の創出に向けて「信州・峰の原高原森林サービス産業推進協議会」を立ち上げ、事務局長として中核を担い、地域と協力して森林・拠点施設の整備のあり方などを検討しています。今後は、峰の原高原を中心に「森林サービス産業」を創出し、担い手づくりに向けて取組を進めます。



協力隊とともにつくる「森のようちえん」

とよおかし

兵庫県豊岡市は市域の約8割を森林が占め、森林と人里をつなぐ「里地里山」の保全と活用が重要です。「里地里山」をはじめとする豊かな自然環境の保全に対する意識を醸成するため、地域おこし協力隊が、市内の林業グループや保育従事者等と連携して、自然保育や自然体験イベント等の活動に取り組んでいます。



～自然を大切にする次世代の“育ち”に向けて～

兵庫県豊岡市 地域おこし協力隊 武藤 保貴さん(活動期間:令和3年度～)

豊岡市の思いに共感し、東京都にある森のようちえんでのボランティア経験を活かして、市内での森のようちえんの立ち上げを実現するため、豊岡市へ移住しました。

市内の林業グループや保育従事者とともに令和3年6月に「森のようちえん つむぐり」を立ち上げ、親子を対象にした自然体験活動を始めました。令和4年度からは本格的に保育事業を始めました。今後は、自然保育の活動に加えて、様々な世代の方を対象とした自然体験や環境保全の活動を進めていきたいです。



北海道木育マイスターによる「アカエゾマツの森」の活用

てしかがちょう

北海道弟子屈町は、国立公園内にまたがるロングトレイルコース「摩周・屈斜路トレイル」も整備されており、冬季はスノーシューや歩くスキーで摩周湖や町内の森をめぐるアクティビティも人気です。観光プロモーション活動支援員として地域おこし協力隊を採用しており、現在活動中の隊員は、プロモーションにおいて弟子屈の自然を活用する一環として、北海道木育マイスターの資格を取得して活動しています。



北海道弟子屈町 地域おこし協力隊 井出 千種さん(活動期間:令和3年度～)

道内のいろんな山に登り、麓のまちを旅するうちに移住を夢みるようになり、出会ったのが弟子屈町です。町の素晴らしい環境を少しでも多くの人に伝えたくて、志望しました。

弟子屈町・川湯温泉の新たな魅力を創出するため「温泉浴×森林浴」を提唱し、川湯温泉内にある「アカエゾマツの森」に着目し、中学生と町民を対象とした「アカエゾマツの森の散策と森林講座」の開催、観光客へのプロモーションを実施するとともに、「北海道の針葉樹」をコンセプトにしたショップもオープン。今年度は、これらを活かしながら「北海道の森」により親しんでもらえるようなイベントを実施したいと考えています。

